

令和三年 つながり続ける 新しいカタチを見つけて

新年のごあいさつ

久留米市社会福祉協議会
会長 萩原 重信



謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆さまにおかれましては、お健やかに新しい年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。

また、日頃より本会に対するご理解とご支援に感謝申し上げます。

さて、近年の地域福祉を取り巻く状況をみてみますと、福祉の担い手不足、また地域における支え合いの希薄化などが課題となっています。

そのような中、昨年三月に、市と市社会福祉協議会とで「くるめ支え合うプラ

ン」を策定しました。このプランに基づいて、人と人、人と社会がつながり、一人ひとりが役割や生きがいを持ち、助け合いながら暮らせる「地域共生社会」の実現に向けて取組みを進めているところです。

一方、昨年来、新型コロナウイルス感染症の終息が見通せない中で、三密を避けながら、いかにして人と人とのつながりを保つかという新たな課題にも向き合うことになりました。

このような時だからこそ、これまで以上に工夫しながら、互いに支え合うことのできる地域づくりを進めていかなければなりません。

本年も関係団体や住民の皆さまと連携しながら地域福祉の推進を図り、「支え合うこころあふれるまちく

るめ」の実現を目指してまいります。

新型コロナウイルス感染症の流行が始まり、もうすぐ一年が経とうとしています。「新しい生活様式」で過ごす日常も当たり前になってきました。

「ステイホーム」が求められ、家族と過ごす時間が増えた人、人に会う機会が極端に減ってしまった人。この一年で、様々な「つながり」について考えた人も多いのではないのでしょうか。

一人ひとりが三密を避けるなど感染予防を行うことはもちろんですが、そのような中、「支え合い」や「つながり」について考え、活動している人・団体も多くあります。

市社会福祉協議会では、コロナ禍でも前向きに活動する皆さんを応援します。



みんなの予防で明るい一年に

手を洗おう



このコロナ禍で、
子どもから大人まで
誰にでもできること。

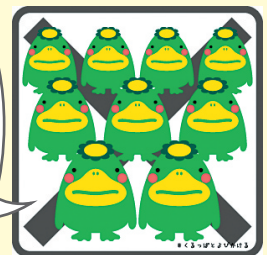
それはやっぱり

一人ひとりが日常の中で
できる限りの「予防」をすること。
基本的な予防方法について
もう一度、確認してみましょう。

窓をあけよう



密をさけよう



マスクをしよう

